「中小企業経営に役立つ資格」 〜その効用から短期合格法まで〜

「お金で暮らしに安心を」ファイナンシャルプランナー（FP）（第4回）

松本光正社労士・行政書士・診断士事務所

I はじめに

人生100年時代をどう生きるのか。
一番気にかかるのは、いかに毎日を健康で過ごすことができるかです。コロナ禍にあって、私たちが生活を再認識することとなりました。

そしてもうひとつ気になること、それは将来のお金についてでしょう。

昨年公表された金融審議会市場ワーキンググループの報告書案に「人生100年時代に備えるには老後200万円の資産が必要」との内容があったことにより、将来への不安が高まりました。

来年4月からは、努力義務ではありませんが、企業は70歳までの就業確保措置を講じてください、ということになりました。少子高齢化が進む中で、公的年金制度への期待がますます大きくなるのも仕方のないことです。

こうしたお金に関する心配について相談にのってくれるのが、ファイナンシャルプランナー（以下、FP）です。FPとは、年金や保険、税金から、住宅ローン、資産運用、相続まで、お金と暮らしについて総合的なアドバイスをする専門家です。

ビジネスパーソンに人気で、1年以内の学習期間で合格可能な資格を「中小企業経営に役立つための教科書」という視点から紹介している本連載。4回目となる今回は、FPを取り上げます。

中小企業の事業主や管理者、従業員がこの資格を取得すれば企業にとってどんな効果があるのでしょうか。それでは、始めめてまいりましょう。

II ファイナンシャル・プランナーってどんな人？

FP資格には2種類あります。

ひとつは、日本FP協会が認定する民間資格の「AFP（アフィリエイテッド・ファイナンシャル・プランナー）」とその上級資格である「CFP®」（サーティファイド・ファイナンシャル・プランナー®）です。CFP®資格は、北米、アジア、ヨーロッパ、オセアニアを中心に世界25カ国・地域（2020年8月現在）で導入されている国際ライセンスです。

もうひとつは、国の技能検定である「ファイナンシャル・プランニング技能士1～3級」（以下、FP技能士）です。こちらは国家資格です。

両資格はお互いに関連しています。

（民間資格）

| 1級 | 学科試験が免除 |
| 2級 | 認定研修を修了し、日本FP協会に入会 |
| 3級 | |

ファイナンシャル・プランナーとは職業の名称なので、資格がなくても名乗ることができます。ただ、その実力を示すために資格が取得し、それぞれの資格名を名乗ることが一般的です。

FP技能士は国の名称独占資格ですので、合格者しか名乗ることはできません。CFP®・AFPは登録商標なので、日本FP協会が認定した者しか名乗ることができません。いずれも国から認められた独占業務はありません。CFP®・AFPは、日本FP協会に入会し、継続教育で単位を取得し、2年ごとに資格を更新しなければなりません。費用の負担もあり大変ですが、それだけ常に最新の知識やスキルを学んでいるという実力の証明でもあります。

では、具体的にどういう人たちかをCFP®・AFP認定者の属性で見てみましょう。40代、50代が中心でそれぞれ約30％です。30代と60代以上がそれぞれ約15％となっていますが、60代以上で活躍されている方が増えています。

業種でみると、業務に直結している金融機関（保険、証券、銀行）が最も多く51％。FP事務
所・土業事務所が7％、不動産・住宅が6％となっています。他方、一般の事業会社にも14％あり、学生・主婦などが13％とさまざまな分野にわたっています。

男女比率のデータは公表されていないのですが、女性の割合が非常に多いのが特徴です。私が受験した際の会場が奈良女子大学だったということからも分かっていたと思いますが、試験当日、駅や大学周辺のカフェに、テキストを手にした多くの女性がいらっしゃったことを覚えています。もちろん教室の中は女性が圧倒的に多かったです。

FP 資格は、金融機関に勤める人にだけ役立つ資格ではありません。さまざまな分野に多くの資格者がいて、特に女性の活躍が見られます。

Ⅲ ファイナンシャル・プランナーの特徴

FPの特徴は「包括的かつ長期的な視点」です。
税金や年金の特定の専門家とは違って、FPはお金に関するすべての領域にわたる包括的な視点からアドバイスします。お客様が一生涯を通してどうすれば夢や目標を実現できるか、そのための生活計画（ライフプラン）を具体的に提案します。
お客様の収入・支出、資産・負債から、生涯計画や価値観まで、あらゆるデータを集め、さまざまな視点で分析を行います。最終的には、想定される問題点についての解決策なども含めた提案書をまとめます。
提案書とはどういうものか、まずは実際に作ってみればよく分かります。
AFPになるため、あるいは2級の受験資格を得るためには、日本FP協会のAFP認定研修を修了する必要があります。予備校等の受験機関は、日本FP協会のAFP認定教育機関になっていることが多いため、受験勉強と同時に提案書を作成するための講義も実施しています。講義を受けた後に「50代会社員からの老後資金の相談」といった具体的な事例について、約30ページにわたる提案書を実際に作成して提出します。これはなかなか大変な作業です。
提案書作成を経験することで、少しだけ自信が持てるようになると同時に、FPになるためには相当な研鑽が必要だということを肝に銘じることになります。

お客様の生涯にわたる生活設計を、包括的な視点から提案するという魅力ある仕事に携われるのがFPの魅力です。

Ⅳ 中小企業経営への「効用」

FP資格を取得すると、まずは自分のお金について見直しができるようになります。「知らなかったために損をしていました」ということがあります。次に、金融機関や不動産会社、ハウスメーカーの従業員は、お客様の資産についての相談を受けることが仕事なので、コンサルティング能力が向上します。これらの会社では必須の資格となっています。ではその他の一般企業において、何か効用があるのでしょうか。

そうですね。それは「優秀な人材の確保」です。「ちょっと採用できなかった従業員だったのにもう辞めてしまった」「優秀なパート社員にももう少し長く働いてもらえないものか…」といった人手不足に悩む企業はこれからますます増えています。人材定着のカギは、従業員の満足度を上げることにあります。
従業員の関心事で共通しているもの、それはお金です。FP資格者は、従業員の家計にまで思いを至らすことができます。そこで、従業員の将来への不安を解消できる、安心して働くことができる体制づくりの提案をしてもらいます。例えば、誰かが退職金を受け取るにまで中小企業退職金共済（中退共）に加入するとか、企業型確定拠出年金（企業型DC）を始めめてみたといったことです。

また、漠然と「年収○○万円以上になると損をすると聞いたので、それ以上は働けません」「月○○円以上稼いでもうと、年金が減らされるそうだから仕事を控えよう」ということで、労働時間抑えてしまっている人がいるはずです。優秀な方に想う存分その力を発揮してもらえないことは、企業の成長を止める要因になっています。FP資格者が個別に面談を行い、正しい知識を伝え、決して損にならないような働き方を提案することで、思う存分仕事に打ち込むことができるようになることが期待できます。

従業員のお金の心配を解決して《優秀な人材の確保》で、企業の成長に貢献することができる内FP資格者の役割です。

V ファイナンシャルプランナー試験ってどんな試験？

ここでは、受験者数が最も多い2級FP技能検定を取り上げます。

FP技能検定の試験実施団体は2つあります。日本FP協会と金融財政事情研究会です。どちらで受験しても大きな違いはありませんので、今回は日本FP協会を例に説明します。

●受験資格： 1級FP技能検定合格者、②2年以上のFP実務経験を有する者、③日本FP協会のAFP認定研修を修了した者

●実施日程： 1月、5月、9月の年3回

●試験方式：

学科試験：（午前 120分）
試験科目：①ライフプランニングと資金計画、②リスク管理、③金融資産運用、④タックステスト、⑤不動産、⑥相続、⑦事業承継

出題形式：マークシート、四肢択一式が60問
合格基準：60点満点で36点以上

実技試験：（午後 90分）
試験科目：資産設計提案業務
出題形式：記述式（択一・語彙選択・数値記入など）が40問
合格基準：100点満点で60点以上

●合格率：学科49.19%、実技57.37%（2020年9月）

※実技試験とはいえ、筆記形式（具体的な事例問題）で行われます。
※学科試験と実技試験は必ずしも同時に合格する必要はありません。
※受験資格③で合格するとAFPを取得できます。

FP技能検定では、お金に関する基本的な知識を6つの科目に分けて体系的に学ぶことができます。

学習範囲は、他の資格とは専門的に学ぶ「税金」「年金などの社会保障」「不動産」「相続」「事業承継」から、より実践的な「ローンのしくみ」「各種保険商品」「資産運用」までと広がります。私たちの生活に身近なものばかりなので「なるほど、そういうしくみだったのか。これはちょっと得したかも」と思いながら学習を進めることができます。

最上位の1級FP技能検定やCFP®は別として、これだけの幅広い分野を学ぶことになるため、問われる知識はどうしても「広く浅く」ということになります。

○×式や四肢択一式の試験である3級はもちろんです、2級についても合格点（6割）を取ることは限ればそれほど難しいことではありません。難しいとすれば、日商簿記検定試験の3級や2級と同じ考えてもつけば結構です。その意味では、商業高校の生徒が卒業までに日商簿記検定試験2級を取得しておくことが望ましいのと同様に、2級FP技能検定も併せて取得しておくことは将来
のキャリアに大きな可能性をもたらしてくれます。

私たち大人の場合、改めてお金をなる知識に向き合い、日々新たな発見を楽しむことができるように資格試験勉強という辛さを感じることはそれほどありません。試験も年3回行われますし、試験当時は「お金に関するクイズを楽しむ」といった気持ちで臨めば良い結果につながるでしょう。

身近なお金に関する広い知識を得ることのできる試験です。試験当日はクイズ大会に参加する気分で楽しみましょう。

VI 短期間で合格をつかみ取ろう

これまで3回の連載において述べてきたのは、多忙でなかなか時間が取れないビジネスパーソンにとって「行わなきゃ絶対に」ということでした。よって必要な知識のインプットは「短期集中」。ノウハウのある予備校等の専門機関の講義用動画を3周視聴して頭の中に入れてしまいましょう、というお話でした。

これはもちろんFP試験にも通じます。ただし、2級レベルまでであれば難易度はそれほど高くありませんので、見やすい市販のテキストを購入してそれを3周読むことで合格レベルに達する知識を得ることは可能です。

今回はアウトプットについてお話したいと思います。ここでいうアウトプットとは、時間を無くして実際に過去問や模擬試験を解いてみるということです。これによって、問題形式を知ることができたり、自分なりの時間配分を考えることができたりと、試験当日の作戦を立てることができるようになります。アウトプットの回数を集めればそれだけ合格に近づくことは間違いありません。

ただ、とにかく時間がかかります。先ほどの2級FP技能検定だと、学科試験が120分、実技試験が90分でした。解いてみた後は、解答解説を読み込む必要はありません。覚えておくべき知識や解法、時間配分で反省すべき点など、気になった事はA4用紙にざっと書き出してストックしておきます。次回以降に活かしていくためです。

これらを全てやろうと思えば休日が一日あれば一回となってしまいましょう。これはインプットの時間を削ってまですることではありません。少し極端な言い方をするけど、知識が問われ、マークシートで答える試験はインプットだけでも合格は可能です。なぜなら、直近の過去問で問われた知識や解法についても最新版のテキストや講義であれば、それらをしっかりとした内容になっているからです。

2級FP技能検定であれば、時間をなんとか捻出して、最低1回は試験当日と同様の時間帯に模擬試験に挑戦してみる、ということで足りるでしょう。

もちろん、アウトプットにも力を入れなければならない合格に近づけない試験もあります。

ひとつは、論述式などの記述が多い試験です。問われたことに対する的確に答える文章作成能力が必要になります。

もうひとつは、事務処理能力や瞬発力を問われる試験です。何度も練習を繰り返して問題の解き方が身体にしみこませた上で、タイムマネジメントしていく能力が必要になります。

アウトプットは、学習時に余裕があれば着手しましょう。インプットに必要な時間を削ってまで行う必要はありません。

《プロフィール》

松本 光正 1972年、奈良県磯城郡生まれ。神戸大学経営学部卒業。外国人技能実習生として在日業務を経て、2016年、独立開業。専門は外国人雇用。全国各地で講演、セミナーを実施している。社会保険労務士、申請取扱労使、中小企業診断士、全国通訳案内士（中国語・英語）。近著に「待ったな！外国人雇用」〜STORYで読む入管法改正〜（三栄社、2019年）がある。メールアドレス：songben0103@gmail.com